

I 研究の概要

1 研究主題

「生きる力」を育てる読書指導
～主体的に学び、豊かな心をもった子どもの育成～



本校では、「生きる力」を「他人とともに協調し、主体的に学び、自分で考えて行動する力」ととらえた。その力を育成するために、読書指導を軸に、国語科の「読むこと」の力を高める授業実践を行う。

「主体的に学ぶ」とは、子どもが必要な資料を収集・選択・活用しながら、他者と協調し自己の課題を解決していく姿であるととらえた。

また、「豊かな心をもった子ども」とは、本を読む習慣が身に付き、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな感性をもった子どもととらえ、このような心を培う読書指導・学校図書館利用を進めていくことを目標とした。

2 研究の仮説と視点

研究の仮説

<仮説1>

国語科における読書の指導法を工夫し、「読むこと」の指導を充実させれば、読む力や理解力・思考力が高まり、主体的に学習していく子どもを育てることができるであろう。

<研究の視点I>

- a 読む力を付ける。
- b 語彙力を付ける。
- c 課題を見つける力を育てる。
- d 考える力を付ける。
- e 表現力を付ける。



「自ら考え、課題を解決し、表現する力」

仮説1に対する研究内容

本を読む力の育成を図るための取組

ア 読む力を育てる読書指導の在り方

- ・ 読み聞かせ、ブックトークの活動を取り入れた授業の在り方（視点 a, e）
- ・ アニメーション的活動を取り入れた授業（視点 c, d）
- ・ 読書発表会を取り入れた授業（視点 c, e）

イ 国語科年間指導計画への読書活動の位置付け

- ・ 年間指導計画の作成、学習計画の充実、1時間単位の中での学習の見通し（視点 c）

ウ 学習情報センターとしての図書室の機能化



- ・ 国語科や国語科以外の教科・領域・総合的な学習での活用（視点 c）
- ・ 辞書・図書資料の活用の充実（視点 b）

<仮説 2>

本を読み広げていく活動に取り組み、多くの考えにふれる機会が増えれば、本を楽しみながら読み、豊かな心を育てることができるであろう。

<研究の視点Ⅱ>

- f 想像力を育てる。
- g 感動する心を育てる。
- h 探求心を育てる。
- i 多様な価値観を育てる。
- j 思いやりの心を育てる。



「他人を思いやる心や感動する心」



仮説 2 に対する研究内容

本を読みきっかけづくりを図るための取組

- ア 図書室の国語コーナーの設置（視点 h）
 - ・ 教科書に関連する本を読み探求心を育てる。（視点 f）
- イ 各学年・教室の「読書コーナー」・「校長先生おすすめ本コーナー」の設置
 - ・ 多様なジャンルの本を読ませる。（視点 i）
- ウ 学級文庫の設置
 - ・ 学級文庫を充実させ、いつでも本が手に取れる環境を作る。（視点 j）
- エ 図書貸し出しシステム「文籍（monjack）」の導入

本を読むことの習慣化を図るための取組

- ア 読み聞かせ活動の充実
 - ・ 子どもによる読み聞かせ活動の充実（視点 j）
 - ・ 教師による読み聞かせ活動の充実（視点 i）
 - ・ 読書祭りの実施（視点 h）
- イ PTA 読書活動の組織作り
 - ・ 保護者による朝の読み聞かせへの取組（視点 g, j）
 - ・ 「おむすびの会」を中心とした読書活動（視点 g）
- ウ 家庭での読書活動の推進
 - ・ 「家読の日」の設定と、家読カードの活用（視点 i）

研究構想図



目指す子ども像
 主体的に学習し、読みの力、理解力、思考力が高まった子ども
 読書に親しみ、豊かな心をもった子ども

5・6年生
 叙述に基づき、登場人物の心情、考え方を多面的にとらえ、
 情景などの表現に着目して読む
 自分の考えを広げたり、深めたりするために、
 主体的な立場で図書資料を選んで効果的に読む
読書テーマ 5年「生き方」・6年「命」

音読・暗唱
 漢字の読み書き
 書くことと連携
 した読み

家読
 読書祭り
 学級文庫

3・4年生
 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む
 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読む
読書テーマ 3年「家族」・4年「やさしさ」

ブックトーク
 読み聞かせ
 アニメーション的活動
 外部人材活用
 読書発表会

PTA読み聞かせ
 おむすびの会
 学校司書による
 読書活動

1・2年生
 叙述に即して、自分なりに想像を広げながら読む
 自ら気に入った易しい読み物を読む
読書テーマ 1年「出会い」・2年「友情」

国語科読書単元の充実
 学習コーナーの設置
 学習情報センター機能の
 充実

図書管理システム
 教師による読み聞かせ
 読書タイム
 おすすめ本コーナー

読書行為力の向上

読書生活力の向上

国語科教育

読書活動

子どもの実態・子どもの思い

【仮説1】
 国語科における読書の指導
 法を工夫し、「読むこと」の指
 導を充実させれば、読みの力
 や理解力・思考力が高まり、
 主体的に学習していく子ども
 を育てることができるであろ
 う。



【仮説2】
 本を読み広げていく活動に
 取り組み、多くの考えにふれ
 る機会が増えれば、本を楽し
 みながら読み、豊かな心を育
 てることができるであろう。

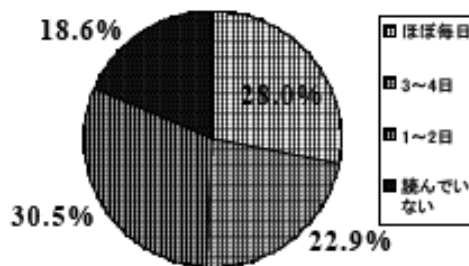
II 研究の実際

1 実態調査による把握

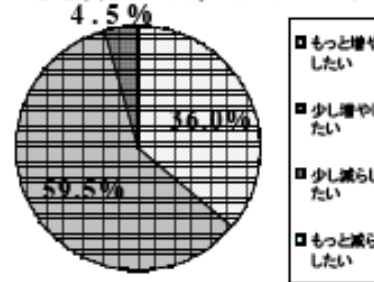
(1) アンケートによる読書の実態把握

ア 保護者へのアンケートより

読書の実態を把握するためにアンケート調査を行った。家庭での読書調査では、子どもが家で1週間に本を読むのは2冊以下であると答えた保護者が半数近くおり、家庭での読書の習慣化が十分定着していないことが分かった。(グラフ1)しかし、95.5%の保護者が、子どもに対して、もっと本を読んでほしいと願っていることも分かった。(グラフ2)



〔グラフ1 1週間に本を読む日〕

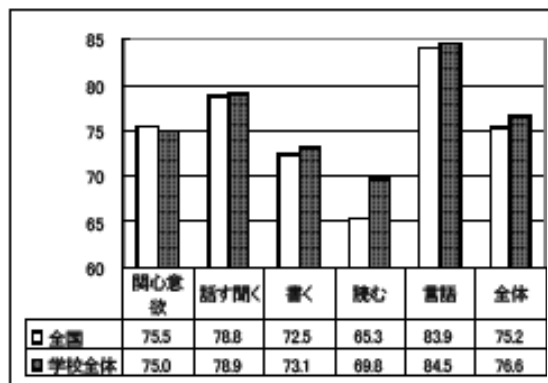


〔グラフ2 保護者の読書への願い〕

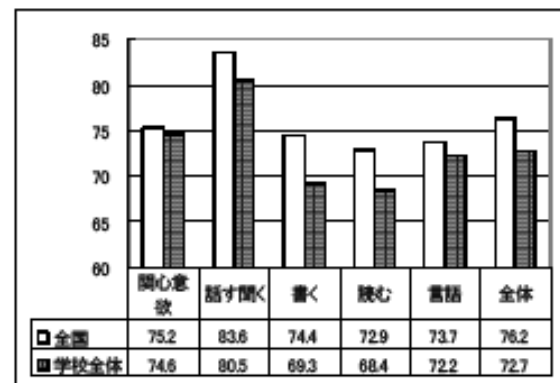
保護者のおはなし会や、緑陰読書、親子読書への参加は、83%の親が「参加したことがない。」と答えている。市の親子読書活動や学校の読書会にもほとんど参加できていないことが分かった。しかし、61%の保護者が、読書会には、「是非参加してみたい。」「機会があれば参加してみたい。」と答えている。また、24%の親が「一度ぐらいは参加してもよい。」と答えており、読書への興味はある。参加できない理由としては、「仕事の都合」や「時間がない。」などの要因が多かった。

イ 子どもの学力の実態より

国語に対する力については、平成17年度のCRTの結果より、上学年(4~6年)が読む力、書く力が付いていない。下学年(1~3年)までは、読む力は高いことが分かる。(グラフ3)しかし、上学年の読む力と書く力を見ると、全国平均と比べ非常に落ち込んでいることが分かった。(グラフ4)



〔グラフ3 下学年の国語科のCRTの結果〕



〔グラフ4 上学年の国語科のCRTの結果〕

以上の結果より、保護者には、家庭で読書をする機会や本に関わる時間の確保、子どもには、多読を支える読む力を身に付けさせることが、重点項目となることが分かった。

2 仮説1とのかかわりから

(1) 本を読む力の育成

国語科の単元の中に、以下のような活動を入れることにより、国語科の「読むこと」の力と「読書行為力」を高める。「読書行為力」とは、本を楽しんでじっくり読む、様々な本を読む、話のあらすじが分かる、本を読んで感想をもつなど、読書をするために必要な読む力である。

ア アニメーション的活動を取り入れた授業

読書のアニメーションは、ただゲームをするのではなく、ゲーム的な手法を通じて子どもたちに本に立ち向かわせ、子どもたちを物語の世界に引き込むことをねらいとしている。

本校のアニメーション的活動は、着目させたい語句に焦点を当てさせたいとき、あらすじをとらえさせたいとき、子どもたちが主体的に学習を進めさせたいときなどの手段として、主に単元の導入段階、展開段階に取り入れた。アニメーション的活動は、読書の視点で行われており、読書行為力を高めるために導入している。

<単元の中のアニメーション的活動の例>

導 入	<ul style="list-style-type: none">・ 場面の順序をとらえるために、挿絵の並べ替えをするアニメーション・ 想像を広げるため、挿絵から場面を想像させるアニメーション・ 登場人物などの心情を考えるための、感想交流のアニメーション
展 開	<ul style="list-style-type: none">・ 登場人物の気持ちや、心情をとらえさせるための動作化・役割演技によるアニメーション・ 着目させたい語句を抜いたり、並べ替えたりさせて、叙述に基づき主体的に考えさせるアニメーション・ 本について友達と考えを比べたり、違いに気付かせたりするためにする意見交換のアニメーション・ 目的を達成するためにグループで活動し、主体的に学習を進めさせるアニメーション
終 末	<ul style="list-style-type: none">・ 読書の楽しさを更に高めるためのゲーム的なアニメーション



[3年生 叙述を並べ替えるアニメーション]

イ 読み聞かせ・ブックトーク活動（外部人材）を取り入れた授業

読み手が本への興味を高めながら、文章内容をつかんだり、おもしろさを感じたりするために、単元の導入段階や、終末段階に読み聞かせ活動やブックトーク活動を位置付けた。読み聞かせ・ブックトーク活動は、教師によるものと、「おむすびの会」によるもの、子どもが行うものがある。（子どもが行う読み聞かせ・ブックトークの活動については、P9「読書発表会・本の紹介を取り入れた授業」で説明）

教師によるブックトークは、単元にそったテーマを考えて本を選び、紹介の仕方を工夫して行う。ブックトーク活動表を作成し、興味関心を高めるための本、当該学年で読んで欲しい本、考えを広げさせるための本などを紹介していく。主に、ブックトークは物語単元で行っている。

＜ブックトーク活動計画＞

1 テーマ	生きる	2 タイトル	人とのつながり
3 対象	5年生	4 時間	15分
5 ねらい	いろいろな本を読むことを通して、人とのつながりを感じることができる。		
6 展開			
紹介する本・話		ブックトークの展開・ポイントになる言葉・その他	
1 冬のくらし		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大造じいさんとガンは、冬の話でしたね。皆さんは、冬の遊びをしたことがありますか。どんな冬の遊びが好きですか。 p. 12を読む。 ・ p. 13の入りだけ読む。 ・ おじいさんが作っていたものは何でしたか。 p. 8・9を読む。 ・ 冬ならではの遊びや暮らしがあるんですね。他にもこの本には、冬のこといろいろな書いてあります。 	
2 設計士・大工 インテリアコーディネーター		<ul style="list-style-type: none"> ・ おじいさんの仕事は何でしたか。 ・ この本は、大工のような職人の世界を紹介している本です。 p. 28を読む。 ・ 夢をもつことは、かっこいいですね。他の職業のことも書いてありますよ。 	
3 詩は宇宙 5年生		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大工さんとおみつさんはどうなりましたか。 ・ みんなも好きな人がいますか。先生も5年生の時に好きな人がいましたよ。そんな気持ちが分かる詩を2つ紹介します。 p. 46・136を読む。 	

〔5年生へのブックトーク活動例〕



〔朝読書の時間の教師による読み聞かせ〕

教師による読み聞かせ活動は、教科書と関連する本を中心に行っている。例えば、6年生では、宮沢賢治の作品の中から、「やまなし」の価値に関連する作品を選んで読み聞かせる。詩や俳句などの単元では、その作品が掲載されている本を読み聞かせて、子どもたちが教科書に関連する本に興味をもち、更に読んでみたい、調べてみたいという関心を高める。

「おむすびの会（読書ボランティア）」による読み聞かせ・ブックトークは、多様な本の紹介で、子どもたちの本への興味・関心を効果的に高めることができる。多様な本の紹介を見ることで子どもたちは、本の紹介を工夫するための手がかりとしている。4年生の「白いぼうし」の単元では、楽しく本を紹介する視点を調べるために、「おむすびの会」に本の紹介をしてもらった。



〔おむすびの会による4年生へのブックトーク〕

子どもたちは、友達に楽しく本を紹介するための視点を学び、自分なりの読みの視点を作ることができるようになってきた。専門的な手法による本の読み聞かせで、子どもたちは、より感動したり、より考えを深めたりすることができる。

また、「おむすびの会」のメンバーと授業の打合わせを綿密に行うことで、教材研究の場にもなっている。

ウ 読書発表会・本の紹介を取り入れた授業

読書発表会や、本の紹介を取り入れた活動は、読後の話し合い活動を通して、読むことの深化・拡充を図る活動である。単元で学んだことを生かして、読書発表会をしたり、本の紹介（子どもによる読み聞かせ・ブックトーク活動）をしたりする。この活動は、単に単元の終末に読書の幅を広げるためだけの読書発表会や本の紹介ではなく、単元で学習した読みの視点を基に、主体的に本を読み、本の紹介をしていく活動である。そのために、グループでメモを取りながらの話し合いや意見交換を通して、本のテーマに迫ったり、作者の背景について考えたりしながら、今までとは違う読みの方法を知り、考えを深めていく。

本の紹介をする単元の活動例（4年「白いぼうし」）

導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おむすびの会」に本の紹介をしてもらう。 ・ 「楽しく紹介したいな。」 <p style="text-align: center;">↓</p>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を読み、紹介するための視点を学ぶ。 ・ 「白いぼうし」で学ぶ。 ・ 心に残る言葉や表現を見つけよう。 ・ 呼び掛けや問いかけの工夫を調べよう。 ・ おもしろいと思った理由を考えよう。 <p style="text-align: center;">↓</p>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本の紹介カードを作って友達に紹介しよう。 ・ 心に残る言葉や表現を入れよう。 ・ 呼びかけの言葉を入れようかな。 ・ 理由を付けると説得力があるな。

単元では、本の紹介をするための視点を学習する。読みの視点を学ぶことで、子ども自ら、意欲的に本を読み、主体的に本の紹介カードを作る活動に取り組むことができる。



〔読みの視点を書く〕



〔作成した紹介カード〕

(2) 国語科年間指導計画への読書指導の位置付け

読書指導を効果的に高めるために、国語科の年間指導計画に読書指導の活動を位置付け、計画的に読書活動に取り組めるようにした。読書単元はもちろんのこと、物語単元などでも身に付けさせたい力を明確にし、読書指導を充実できるようにしている。

また、説明文単元では、調べるための読みができるように、図書室利用を進めている。

(別冊 学習指導案集を参照)

(3) 学習情報センターとしての図書室の運営

<国語科や他の教科・領域・総合的な学習の時間での活用>

学習情報センターとしての図書室の整備を進めるために、図書室にもパソコンを6台配置した。パソコンは無線LANでつなぎ、各テーブルでも調べることができる。子どもたちはインターネットを利用して、自分の学習課題について様々な資料を活用して調べたり、まとめたりすることができた。

特に国語科では、作者について調べたり、同一作者の本を検索したりする活動ができるようになった。

また、総合的な学習の時間等でも活用できるように、単元に合わせた内容の書籍を展示し、調べ学習で活用できた。

(展示本の例)

4年生 単元名「昔の暮らしを調べよう」

「祭りと行事、昔と今」

「みんなの学校、昔と今」

「昔のくらしの道具事典」「昔のくらし」

「昔の子どものくらし事典」



[無線LANによるインターネットでの調べ学習]



[総合的な学習の時間の調べ学習での活用]



[総合的な学習の時間に合わせた書籍の展示]

2 仮設2とのかかわりから

(1) 本を読むきっかけづくりのための取組（読書環境の充実）

ア 図書室の国語コーナーの設置



〔分類番号と内容の掲示〕

図書室の正面や横に、書籍の分類を分かりやすく掲示している。



〔おすすめの本コーナー〕

国語の時間におすすめの本を紹介するしおりを作った。



〔下学年国語コーナー〕

国語の時間におすすめの本の紹介文を書いて、図書室入り口に展示している。



〔上学年国語コーナー〕

「雨の日の読書」をテーマに読書に関する俳句を考える活動を行った。



〔新しい本コーナー〕

新しい本が入るたびに、子どもたちの手にとりやすい位置に本を紹介している。

イ 各学年・「教室の読書コーナー」・「校長先生おすすめの本コーナー」



〔1年生読書コーナー〕

1年国語「ほんとなかよし」の単元で、教科書に提示してある本を授業で読み聞かせをして、紹介した。



〔3年生読書コーナー〕

3年国語「本はともだち」の単元で、自分のおすすめの本のおびを作って紹介した。



〔6年生読書コーナー〕

6年国語「平和の砦を築く」の単元で、平和・ユネスコ活動に関する図書を集め、展示した。



〔教室の「読書コーナー」〕

各教室の「読書コーナー」の本は、ブックトークなどをした本などを教室に「国語科学習コーナー」として設置している。
また、教科書と関連する本を置くこともある。



〔「校長先生おすすめの本コーナー」〕

校長室の廊下に、「校長先生のおすすめの本コーナー」を設置している。子どもたちが座って読めるように、いすを用意して、大好評となっている。



図書便りで、紹介している。

ウ 学級文庫の設置

なかなか図書室に足を運ばない子どもでも、身近に本があれば、気軽な気持ちで本に親しむのではないかと考え、学級文庫を設置した。

学級文庫の設置に当たっては、各家庭に呼び掛けて、学級にもって来てくれる本を集めた。その学級内だけで読み、貸し出しはしないこと、子どもたちが扱うので、破損する恐れがあるかもしれないことなどをあらかじめ説明した。

現在、それぞれのクラスごとに数十冊の学級文庫があり、子どもたちは、朝の読書タイムや、休み時間等、わずかな時間を見つけては、よく本を開いている。



〔学級文庫の設置〕

保護者各位

学級文庫の設置についてお願い

枕崎小学校校長 本坊 修二
枕崎小 読書指導部

陽春の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。

さて、本校では、平成 18・19 年度県の「読書活動」の指定を受け、子どもたちに、読む力と豊かな心を身につけさせるために、研究を進めております。そこで、いつでも読書ができる環境作りの一環として、学級文庫を設置したいと思っております。

「本がまわりにある」「本がいつでも借りられる」という環境を作ること大切なことです。子どもは「いつでも、本が自由に読める」環境があると、本を読むようになると考えています。現在は、「朝読書の時に」「テストが終了した時に」「給食時間に」読書をするようになっております。

つきましては、家庭で読まなくなった本（児童向け）がありましたら、学級に持ち寄ってくださるようよろしくお願いいたします。

なお、本を貸していただくにあたっては、以下のようになります。承諾した上でご協力ください。

- 1 貸してくれる方だけでかまいません。強制ではありませんので、無理はされなくてください。
- 2 本の持ち主の了解を得たものだけをお貸しください。兄弟等や友達の本を勝手に持ってくるとトラブルの原因になります。
- 3 子どもには注意を払うようにしますが、本が傷むことがあります。
- 4 本を借りる人は教室で読む、持って帰らないこととします。紛失のないよう細心の注意を払いますが、貴重な本は持ってこないようお願いします。
- 5 お借りした本は、学年末にお返しいたします。

〔学級文庫設置のお願い文〕

エ 図書管理システム文籍 (Monjack) の導入と図書室の情報化

(ア) 導入までの経緯

読書冊数の少ない子どもにその理由を聞くと、「図書室は遠いから行きたくない。」「借りるのに時間がかかるからいやだ。」と読書以外の理由を挙げる子どもも少なくない。

本校の図書の貸し出し時間は、2校時休み（15分）、昼休み（45分）、放課後（6校時終了後だと16：20～）と平均的である。しかし、図書室から一番遠い6年生の教室からは3分以上かかり、2校時休みにじっくりと本を選ぶ余裕はない。たとえ早く着いたとしても、カード記入式のシステムであれば、カウンターに長蛇の列ができ時間内に処理することは難しい。

そこで、バーコードを使った図書管理システムの導入を検討した。ソフトは、学研「NEW教育とコンピュータ」で紹介されていた、図書管理システム「文籍 (Monjack)」を導入することとした。「文籍」は、静岡県の県立高校の先生が開発したフリーソフトで、無料で導入できるメリットは大きかった。必要なパソコンは、「ICT教育推進プログ

ラム協議会「リサイクルPC寄贈プログラム」を利用し、情報化に必要なパソコンとともに寄贈していただいた。

(イ) 導入順序

a 蔵書登録（書名と著者名を登録）

約12500冊を冬休み等を利用し、職員で分担して登録

b 利用者登録（子どもと職員を登録）

約600名を登録

c パソコンの設定

（「文籍」のインストールと無線LANの設定）文籍用2台と図書室の情報化用6台

d バーコードラベル貼付（職員作業と図書委員会）

職員作業や委員会活動を利用し、貼付作業



〔職員作業によるバーコード貼りの作業〕

なお、図書管理システムは、無料だが、その他にバーコードリーダー、バーコードラベル、保護シート等必要な物品があった。これらは、PTA予算で購入していただいた。



〔「文籍(MonJack)」を管理するサーバー〕

(ロ) 導入後

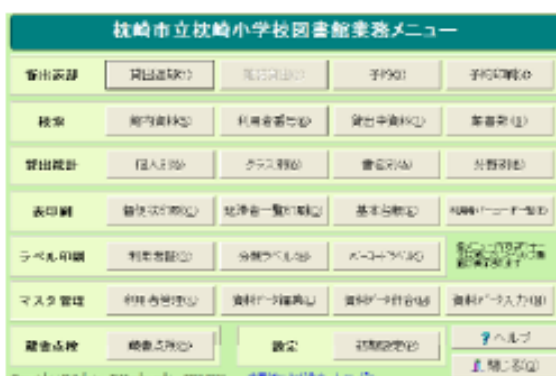
<メリット>

- 短い時間でも貸し出し返却が可能になった。（待ち時間の大幅削減）
- カードに記入する必要がなくなった。（時間の有効活用、特に1年生）
- 1回の貸出冊数が1冊から2冊に倍増した。（読書意欲の向上）

<デメリット>

- 導入時の蔵書登録やバーコードラベル貼付の作業に時間がかかる。

ソフトへの要望はあるが、図書管理システムの運用面のメリットの方が大きかった。本校では職員と子どもによるまさしく手作りの導入となった。大変な作業であったが、そのことがこのシステムに対する愛着を生み、読書に対する興味関心も高める結果につながっている。



〔スムーズなバーコードでの貸し出し〕

(2) 読むことの習慣化

ア 子どもによる読み聞かせ

読書タイムの読み聞かせの日に、4年生から6年生の子どもが、下学年に読み聞かせをする。6年生が読み聞かせの日は全学年へ行く。5年生が読み聞かせの日は、4年生以下へ行く。4年生の場合は、3年生以下へ行く。1組はそれぞれの学年の1組へ、2組は2組へ、3組は3組へ読み聞かせをする。読み聞かせ当日までの準備については次のとおりである。

まず、1クラスを学年の数に合わせたグループに分け、読み聞かせに行く学年を決める。学年が決まったら司書に読み聞かせの仕方を教えてもらい、本の選び方についてアドバイスをもらう。その後、グループのメンバーと相談しながら本探しをする。本を探したグループは読み聞かせの練習をする。お互い聞き合い、よかったところ、練習したほうがいいところなどアドバイスを交換する。

(子どもによるアドバイス)

- 台詞を分けたり、本を支える人と読む人を分けたりして読むと、読みやすそうだったよ。
- ページをゆっくり開くところと、早めに開くところが工夫してた。
- 早口で読むと分かりにくいけど、早く読むところとゆっくり読むところとか読み方を工夫したのがよかった。
- ▲ 声が小さいと分かりにくいので、もう少し大きな声で読んだほうがいいよ。
- ▲ 絵本の持ち方が斜めになると見にくいよ。

(子どもの感想)

- 先生やおうちの人が読むのを見ていて簡単そうと思っていたけど、自分がやってみると意外と難しいと思った。
- みんながちゃんと聞いてくれてうれしかった。拍手をもらってうれしかった。
- 始めははずかしかったけど、読んでいるうちに楽しくなった。また、やってみたい。

イ 教師による読み聞かせ

朝の活動「読書タイム」を活用し、各学級に担任以外の教職員や上級生が出向き、本を読み聞かせすることで、ふれあいを深め、本の世界に親しむ喜びを味わうことができるように昨年度より始めた。本年度も以下のような計画を立てた。学級担任による読み聞かせは、日常的に行っているが、他の教師が行うことで、担任とは違った視点で本に対する思いや読書体験を語ったり、子どもたちに新鮮さをもち込んだりすることができる。



〔低学年への読み聞かせの様子〕



〔本選びは各教師で選ぶ〕



〔いつもと違った先生で楽しいな〕

平成19年度教師による読み聞かせ活動計画

- 5月21日 担任が自分の学級で読み聞かせ
- 6月11日 学級担任が1学年下の同じ組で読み聞かせ
- 11月12日 担任が2学年下の同じ組で読み聞かせ
- 2月 4日 担任が自分の学級で読み聞かせ

ウ 読書祭りの実施

平成18年度より、校内読書週間の取組の一環として、読書祭りを実施している。できるだけ、子ども主体で実施をさせたいと考え、昨年度は、図書委員会の子どもに係を割り振り、読書指導部の6人の教諭が、それぞれの係の指導にあたった。

《校内読書祭りの内容》

1. 多読者紹介
2. 読書クイズ
3. 校長先生おすすめの本紹介
4. 図書郵便当選番号発表
5. 読み聞かせ



〔図書委員会の運営による読書祭り〕

低・中・高に分けての読書クイズや大きなスクリーンに映し出された「校長先生のおすすめの本」、担任以外の教諭による読み聞かせなどで、子どもたちからは、とても楽しかったと好評だった。また、図書委員会の子どもも、大きな仕事をやり遂げた達成感を味わうことができた。

反省点・改善点としては、練習時間の確保、多忙な時期の図書委員会の負担の大きさを考え、次年度から、係を各学年に割り振る案、読書祭り自体を、低・中・高に分かれて実施する案などが出された。

(3) PTA読書活動の充実

ア 保護者による朝の読み聞かせ活動

(ア) 本格実施に至るまで

- 平成18年度8月の研修で「保護者による読み聞かせ」を係が提案した。それを受けて、3学期にPTA生活指導部で1回実施することができた。しかし、一つの部だけで毎月実施していくのは、負担が大きく、おむすびの会だけでも人手不足であるため、保護者全員が取り組めるようにしてほしいとの要望が出た。
- 平成19年度5月PTA総会の前に校長室にて、PTA会長・副会長、研修係、読書指

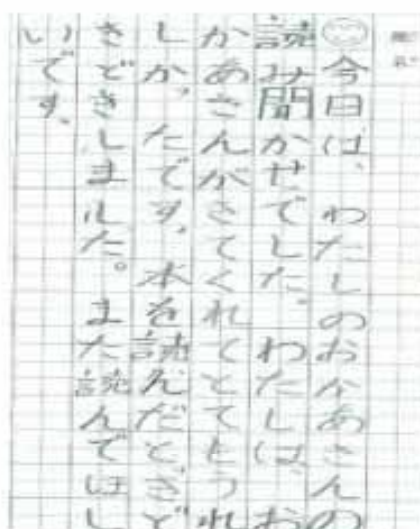
導担当が集まり、保護者全員が取り組む読み聞かせ活動についての話し合いが行われた。総会前の各専門部会で読み聞かせ担当と実施時間について説明を行う。

月/日	曜	読み聞かせ担当	実施時間
6/3	日	学級委員長・副委員長	日曜参観時 2校時～3校時の間
7/2	月	生活指導部	8:15～8:30
9/10	月	研修部	8:15～8:30
10/15	月	広報部	8:15～8:30
11/5	月	事業部	8:15～8:30
1/21	月	保健部	8:15～8:30
2/25	月	体育部	8:15～8:30

PTA総会で、保護者に取組について説明し、副委員長が世話係となる。6月日曜参観で役員が手本を示すことに決まる。



〔保護者による読み聞かせの様子〕



〔読み聞かせの感想(子どもの日記より)〕

(イ) 成果

- 保護者の読書に対する意識が高まり、市立図書館を訪ねたり、家でお薦めの本を読んであげたりするなど、活動が主体的になっている。
- 子どもたちは、読み聞かせの時間をとても楽しみにしており、保護者が読むことで新鮮な気持ちで聞いたり、家で読んでもらったりして喜んでいる。
- 本の選定や読み聞かせの仕方については、保護者と担任、司書で話し合っているが、子どもたちの読書傾向や読書量について話すよい機会となっている。

(ロ) 課題

- 打合せや練習の時間については、保護者とのずれが生じ、調整が難しい。

イ 「おむすびの会」を中心とした読書活動

(ア) 発足の経緯

これまでも本校で読み聞かせはしていたが、年に2回程度の活動であった。

「子どもたちに読書の楽しさを伝えたい。」「もっと子どもたちに本を読みたい。」、という気持ちと、定期的に読み聞かせをするために、「読み聞かせの会」を作りたいという考えを校長に伝えた。

司書の協力のもと、募集の手紙を作成・配布し保護者に呼び掛けた。そうして、集まった

メンバーは少人数だったが、子どもと本を結び、さらには本を通して人と人を結ぶ「おむすびの会」が発足した。細々とでいい、ゆっくりでいい、でも、長く続く活動でありたいとメンバー一同「頑張らず」に楽しんでいる。

(イ) 活動内容

a 朝の読み聞かせ（8：15～8：30）

1年生を対象に月2回程度実施している。絵本の読み聞かせを中心に、指遊びや言葉遊びなども取り入れ、楽しい時間を過ごせるようしている。

b 緑陰読書会（年2回）

「子ども読書の日」の時期や全国読書週間の時期、絵本の読み聞かせの他に、地元の昔話を題材とした大型紙芝居の実演や読書クイズなどで、子どもたちが楽しく参加できる緑陰読書会を実施している。



〔緑陰読書の様子〕

c 図書室でお話し会（6月・12月）

平日の昼休み時間の30分間を利用したお話し会を実施している。読み方を工夫したり、小道具を使ったりして会の内容の充実を図っている。毎回たくさん子どもたちが参加してくれている。



〔クリスマス読書会の様子〕

d 授業への協力

ペープサートやブックトークを実施している。読み聞かせとはまた違った難しさを感じているが、少しでも子どもたちの読書に対する興味・関心を高めることにつながればと思い協力している。



〔授業でのブックトーク〕

(4) 家庭での読書運動推進（家読〈うちどく〉のすすめ）

子どもの読書に対する興味や関心、意欲を高め、その継続性と日常化を図るというねらいで、本校では、家読（うちどく）を各家庭で取り組んでいる。以前は、音読カードのみを活用しており、音読の習慣化が図られつつあった。音読は、図書でもよいとしており、家庭での読書も期待していた。しかし、読書活動の個人差の大きさ、家庭での読書活動の実態把握不足、親子のふれ

あいを基調とした親子読書の積極的導入という点から、「家読（うちどく）カード」による家庭での読書の啓発を行った。

家読は、毎週水曜日、家族で 20 分間家族で本を読むことと設定した。あえて平日に設定したのは、普段から読書をする習慣を身に付けさせていきたいという思いからである。読書の時間を必ず確保し、読書日記などを書くようにしている。

成果としては、「家読カード」の活用により、なかなか本を読まなかった子どもたちが読むようになった。また、保護者の音読や読書活動への意識が少しずつ高まり、全体的に音読や読書の習慣化を図ることができた。また、毎日の宿題とともに提出させることで、日常の家庭学習の中に音読・読書活動が定着しつつある。今後の課題は、家庭によって取組の差があるので、学級通信や教育相談等を通して保護者に啓発を行っていきながら学校からの支援を継続していきたい。

みんなて家読（うちどく）はじめましょう！

学校では授業が始まる前の時間を利用して、全員が好きな本を読む「朝の読書」が定着しています。「朝の読書」を通して読書が習慣化し、読書の楽しさを知っている子どもたちが増えつつあります。そこで、今度は家で家族みんなで本を読む新しい読書スタイル「家読（うちどく）」をすすめたいと思います。



◎ 家読（うちどく）をどのように進めるか？

毎週水曜日を家読（うちどく）の日と決め、家庭で本を読む習慣を身に付けさせたいと考えています。この日は、家庭でもテレビを消して 20 分程度、読書をしていきます。低学年は、絵本を読んであげたり、子どもと一緒に本を読んだりしていただくとありがたいです。

最近、子どものいじめや自殺といった社会問題が深刻化しており、こうした子どもたちの心の問題は、家族の会話やコミュニケーション不足が深く影響し、また子どもだけでなく大人の読書不足とも因果関係があると言われていいます。このような社会的背景を踏まえ、家族のコミュニケーションを図る一つの手段として、「家読（うちどく）」を本校でも取り入れて行きたいと思えます。家庭で読書の時間をつくり、読書を通じたコミュニケーションを図ることで、家族の絆がさらに深まることを願っています。

「家読（うちどく）」は家族で読書の習慣を共有することです。
家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。
これが「家読（うちどく）」の基本です。



〔家読を保護者にも PTA で保護者に依頼〕

1	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
2	ハートがのる	○	奥マシ	○	4年	○
3	やまなし	○	パルテリ	○	4年	○
4	ハートがのる	○	ラブ・スター	○	4年	○
5	やまなし	○	ザ・バズ	○	4年	○
6	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
7	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
8	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
9	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
10	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
11	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
12	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
13	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
14	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
15	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
16	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
17	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
18	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
19	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
20	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
21	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
22	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
23	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
24	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
25	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
26	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
27	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
28	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
29	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
30	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
31	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
32	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
33	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
34	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
35	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
36	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
37	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
38	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○
39	やまなし	○	おれでうかいはい	○	4年	○
40	ハートがのる	○	おれでうかいはい	○	4年	○

◎ 毎週水曜日、家族で「うちどく」の日です。親子で読書を楽しみましょう。また、読書日記を書きましょう。※ 読書日記は「うちどく」の日です。

〔家読カード〕

題名 初めての家読
お母さんに初めて本
を読んでもあげて少し
難しかったです。
これからもっと本を読む
のをうまくして、みんな
に本を読んで聞かせら
れるようにがんばり
たいです。

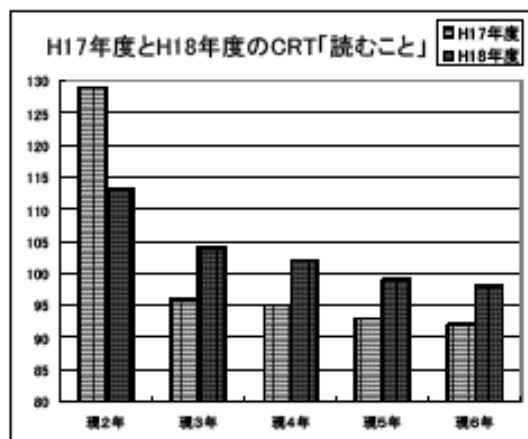
〔家読の感想（子どもの日記より）〕

以上のような活動を通して、家庭、地域、学校が一体になって読書に取り組む体制を作ることができた。

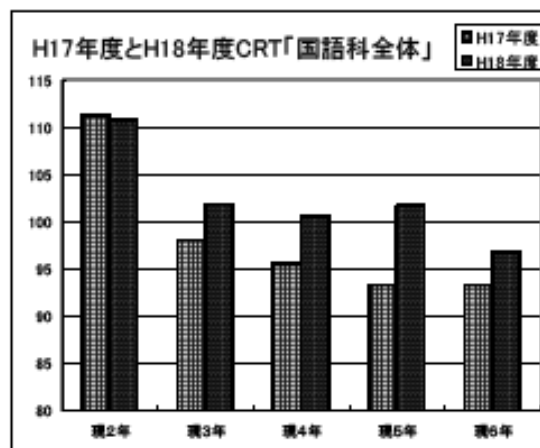
III 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 平成 18 年度の CRT の結果より「読むこと」の学力が前年度と比べて非常に伸びてきた。(グラフ 4) また、国語科全体としても伸びが見られた。(グラフ 5)

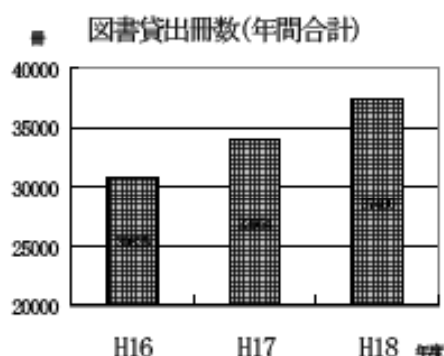


(グラフ4 CRT「読むこと」の通過率(全国:100))



(グラフ5 CRT 国語科全体の通過率(全国:100))

- 読書量についても、平成 16 年度から増加している。(グラフ 6) また、「去年と比べて本を読むようになったか」という質問では、昨年度より「よく読むようになった。」「まあまあ読むようになった」と答えた児童が 88 % おり、意識の向上も見られた。



[グラフ6 年間読書冊数の増加]

- P T A の協力体制が整い、保護者の読書へ意識の高まりが見えた。保護者は、各自で市立図書館へ行ったり、図書室へ来たりして、自主的に本選びをしていた。また、保護者同士が夜に集まって、読み聞かせ練習会等を実施する学級もあった。P T A 読み聞かせ活動の組織と仕組みを構築できたことは、これからの読書活動に非常によい効果をもたらしてくれると期待できる。

2 今後の課題

- 読書の年間指導計画を綿密に立てる。
- 取組へのむらがないように、職員できちんと共通理解を図っていく。
- 国語科の「力の系統表」を作成し、各学年の発達段階や子どもの実態に応じた取組を行っていきたい。
- P T A 読み聞かせ活動の継続を図る。
- 家読(うちどく)の実施状況追跡調査を行う。
- 保護者の読書の啓発と連携を進める。

連絡先
 枕崎市立枕崎小学校
 教頭：比志島 寿
 電話番号：0993-72-9881
 FAX 番号：0993-72-0094